

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100881		
法人名	(医) 静風会		
事業所名	グループホーム HIPPO		
所在地	岐阜県大垣市室村町1丁目178番地		
自己評価作成日	平成23年7月7日	評価結果市町村受理日	平成23年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/i.nfonmti.onPubl.ic.do?JCD=2172100881&SCD=320&PCD=21111
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、医療との連携強い。又、職員も大多数が(8名中6名) 4年～5年 HIPPOでの勤務を続けており、なじみの関係あり。更に今年、介護福祉士50%を越え良質のケアを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が医療機関で認知症専門医であることから、利用者や家族、職員も安心して穏やかな日々を送っている。利用者の状態により精神デイケアに通うこともできる。管理者は、外部評価での気付きを大切にして職員と一緒に考えサービスの向上に繋げている。運営推進会議では毎回利用者全員が参加しており、地域の方が、利用者一人ひとりの名前や顔を覚え馴染みの関係を築いている。また、地域行事の参加や商店の利用の他、出前講座や介護相談など事業所も地域に役割を果たしている。日頃の相互の関わりから、常に地域住民から気にかけてもらえる関係が築かれており、地域に溶け込んだ事業所といえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	HIPPO 理念に地域密着型と記されていないが、開所当時から現在まで地域とのふれあい深く続いている。馴染みの地域、人々の中で実践されている	理念は、設立当時に全職員で作上げたもので、地域の中で安心して暮らし続ける事を大切にしている。常に、理念を会議などで振り返ることで、より身近なものとして、地域に溶け込めるよう実現に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議(5年以上続いている)、地域行事参加、防災避難訓練、回覧板の活用等日常的に交流、	回覧板や運営推進会議を活用して情報などを発信することで、事業所や利用者を知ってもらえ、日常的な交流につなげている。また、認知症理解のための出前講座を開き、多数参加者があり、独居の方や家族介護の相談ものっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出前講座実施し地域住民に、認知症理解、支援の方法を話し又地域住民の相談にものったりして活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では入居者全員が参加、一人一人の思いをお聞きしたりもしている。より深くサービスの実際、話し合いを行いサービス向上に活かしている	会議では、全ての参加者が発言できるようにしており、話しやすい雰囲気づくりに努めている。提案された様々な意見や要望は、サービスの向上に活かしている。しかし、最近参加者が固定化しているようである。	開催日や時間を工夫し、より多くの家族や地域の人の参加を求め、新しい視点の意見を得ることで、更なるサービスの向上を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	権利擁護の入居者2名居られ積極的に関わっている。また運営推進会議では毎回地域包括の職員が参加し協力関係を築いている	市町村担当者とは、制度の相談をしたり提案を受けるなど日頃から連絡を取り合い協力関係を築くよう取り組んでいる。また、社会福祉協議会の担当者とは、利用者の報告などしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が2階にあり、やむを得ず施錠し、転落防止安全確保に努めているが申し訳ないとの気持ちを職員全員が持っている	管理者及び職員は、身体拘束をしないケアの大切さを理解している。建物の構造上、玄関に鍵をかけている。しかし、落ち着かない利用者には事業所内を散歩したり、ドライブに出かけて気分転換を図るなど配慮に心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の研修に管理者、職員も参加、HIPPO内研修も行い全職員に伝え、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者の中で日常生活自立支援事業や成年後見制度利用されている方が居られ、学び支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明の元に契約、本人、ご家族に安心して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは毎夜、お茶会等でゆったりと話を伺い 運営推進会議でも 家族代表、入居者からも意見が出る様図っている。面会時にもアドバイスが頂けるよう図り運営に反映させている	毎夜のお茶会や家族の訪問時、運営推進会議などで意見を言いやすい関係を作っている。職員の言葉づかいなど出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員と意見交換し、必要時は法人へ提案、反映させている	管理者は、職員の意見や要望を出来る限り聞き運営に反映させようとしている。しかし、職員会議など意見や提案など聞く機会もあるが、運営に反映するまでに至っていない。	職員会議や日常的な意見交換など密にして、職員の提案・要望などから更に運営に活かす事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給与、介護職員処遇改善金等により やりがい持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加を進めており 今年介護福祉士2名合格し 介護職のうち5割以上が国家資格有りとなる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者に関して、ネットワーク作り、相互訪問等の活動あり、職員は各自で新施設等の訪問等積極的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと取り ご本人の安心を得るため関わり多くし、努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療との連携も強く、本人家族のその時の必要な支援を見きわめ、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の素晴らしい点には 職員も見習う事多く 共に支え合う関係である		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆強く 一緒に本人を支えていく関係が出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人の中で、ご本人以前入院、入所していた施設との連携あり、支援している又。ドライブ利用し大垣市街中へも出かけている	外出時には自宅や図書館に立ち寄りしたりしている。また、法人の行事では、家族のみならず、友人や馴染みの人も招待している。普段は手紙を書くなど関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元々、利用者同士仲が良い、助け合っているのを見ても 職員が勉強させて貰っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された元入居者への見舞にも行き、相談等にも乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをしっかり取り、努めている。困難な場合は本人本位としている	毎夜のお茶会やのんびりと過ごしている時に思いや意向を引き出せるように声かけをして把握をしている。困難な人は、身体の状態や顔色・表情を注意深く見て思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとり、馴染みの生活が出来る様援助し これまでのサービス利用の経過等の把握にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢者多く 配慮必要の為 現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを大切にし、主治医の意見等も入れ現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、利用者・家族・職員・主治医などの意見を基に、3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。また、必要な場合は随時変更し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテ記録を活かし 情報共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに対応し 精神ケアに3名通所、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携深い、散歩等通じ豊かな暮らしを楽しまれる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり 主治医との連携深い(特別診察で受診)	母体が医療機関で連携はスムーズであり、家族や利用者は安心感を持って、主治医との信頼関係の上、医療を受けている。他の医療機関の受診希望については家族と相談して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回、母体より訪問看護を受け、報告相談し支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の中で、連携常にあり、病院関係者との関係も深い		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	チームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針を説明し同意を得ている。重度化や終末期は母体の医療機関へ転院となるが、利用者・家族と話し合いながら方針を共有し、転院した利用者を訪問して支援している。また、職員は急変時の対応の研修を繰り返し受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	訓練を定期的に行っている為、全職員が実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害訓練を行っている。運営推進会議でも毎回協力体制を確認している	午後7時に運営推進会議を開催し併せて、地域住民の協力の下に、夜間の避難訓練を行うなど工夫をしている。毎回会議時には、事業所と地域の協力体制の確認を行っており、職員は2階からの避難方法を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折、利用者様から 本音を伺う事もあり。接遇には力を入れている。出来ていると思う	職員は、「自分がされたいやだと思うことはしない」よう日頃から心がけている。また、毎年接遇の研修を受け、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	食事内容や役割、レク等ご本人の思いを確認したり自己決定が出来る様図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いに添った、ゆったりとしたケアを心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	HIPPOに定期的に地域の理髪店が来所、顔そりカット等施行。他美容院に行かれる方二名、服に興味ある方も多く各々おしゃれを楽しまれるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は 利用者様と話し合っ決めてる事多い。食事準備、片付けは職員、利用者一緒にしている	献立は利用者とは相談しながら決めている。包丁を使い料理をする人、食器拭きや食事時の挨拶など利用者の力量や思いに応じた役割があり、利用者と一緒に楽しく食事出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員、主治医から血液検査の結果に対し誉められている。飲水の苦手な方は水分チェック表を活用、好みの飲み物やゼリー、トロミ等使用し提供、支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や残存機能に配慮したケアを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	平素から、オムツはずしに力を入れ排泄の自立に向けた支援を行っている。また職員、ご家族が古いシーツ(清潔)等持ち込み お尻拭きに活用、喜ばれている	オムツ使用の利用者を排泄の自立に向けて、日中はトイレ誘導をして成功した事例もある。重度の人も昼間はポータブルを使用し、出来る限りオムツ使用の時間を少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行う他やヨーグルト、かぼちゃ、りんご等活用、予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢者である事に配慮し、医療との連携(訪問看護等)もあり ご前中に入浴施行している。3回/週、入浴有り。ゆったりと過して頂いている	皮膚に疾患等がある時は、訪問看護の時間に合わせて入浴している。また、汚れた時などは、随時、シャワー浴を行うなど柔軟に対応している。今後、夜間入浴の希望があれば対応できるよう、検討する予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々により、又その時々状況に応じ安眠、安心して休息出来る様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携、そして信頼も有り。服薬支援、症状の変化の確認に努めている、		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の意思伺いながら、HIPPO車利用し、買い物、ドライブ、外食、図書館等への外出多い、		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域内散歩の他、ご家族との外出、外食、一人ひとりの希望に沿って支援している。連携施設への外出、地域の祭り等への参加も有り、楽しんでいる	近所を散歩したり、併設の託児所の子どもたちと触れ合っていて楽しんでいる。利用者の希望を聞き、家族と協力しながらドライブや外食・墓参り・図書館・絵画展に出かけている。デイケア(精神科)に通う利用者もいる。	

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物、喫茶店、外食時等 本人の希望や力に応じ 自分で支払いが出来る様支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話使用も出来、手紙のやり取りも出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の気付き多く その都度話し合い 居心地良く過せるよう工夫している	共有空間は明るく、食事やくつろぎなど用途に合わせてテーブルの配置を変えて居心地よく過ごせるよう工夫している。また、季節の飾り物・手作りのカレンダーやランチョンマット・記念写真など季節感や生活感を採り入れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂隅に置かれた三人掛けのソファベッド、利用者様同士話したり、横になられる方もあり思い思いに使用され 居場所となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	遺影、家族写真、化粧台、たんす、テレビ等、ご家族と相談し ご本人の 好みの物活かし、居心地良く生活出来る様、工夫している	テレビ・たんす・化粧台・ゴミかご・家族写真など、利用者一人ひとりの好みや使い慣れた物を活かしている。配置なども工夫があり、家族の協力を得ながら居心地よく暮らせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーター、廊下の手すり等無いが、その分、職員がかけ付け 事故の無い様、残存機能活用した援助をしている		